

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ヤマセミ

Megaceryle lugubris lugubris (Temminck, 1834)

笠原里恵（信州大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



環境省 編

令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：笠原里恵，2026．ヤマセミ．環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 590-595．

Citation: Kasahara, S., 2026. *Megaceryle lugubris lugubris* (Temminck, 1834). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 590-595.

ヤマセミ

Megaceryle lugubris lugubris (Temminck, 1834)

カテゴリー判定結果 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) A2				
基準 A: VU	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
A2. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 【比較年】 10 年（世代時間不明） 【過去の状況】 全国鳥類繁殖分布調査の調査結果から、1990 年代と 2010 年代にほぼ同じコースを調査できた調査地点のうち、1990 年代にヤマセミを記録できた調査コースの数（北海道以外）は 72 コースだった。 【近年の状況】 全国鳥類繁殖分布調査の調査結果から、1990 年代と 2010 年代にほぼ同じコースを調査できた調査地点のうち、2010 年代にヤマセミを記録できた調査コースの数（北海道以外）は 39 コースだった。				
評価分科会： 鳥類分科会				

概要

ヤマセミ（亜種ヤマセミ）は日本で繁殖するカワセミ科の中では最も大きく、本州から九州に生息する。おもに河川の源流域から中流域、山地の湖沼に生息するが、地域によっては海岸地帯にも生息している。主要な食物は体長 20 cm くらいまでの魚類。営巣に適した土崖や食物となる魚類の減少などにより、1970 年代以降、分布が縮小し続けており、繁殖や採食に関わる環境への改善策が求められる。

基礎情報

【形態】

全長 410-430 mm、全嘴峰長 63-70 mm、最大翼長 179-196 mm、心臓長 12-15 mm、尾長 106-124.5 mm。体重 240-305 g。雌雄ともに頭、また体と翼の上面は白色と黒～灰色のまだら模様。目先には白いスポットが、目の下には狭い三日月状に白い部分がある。額と冠羽は長く直立しており、冠羽のまだら模様の羽の中には、真っ白な短い羽が部分的に混ざる。顎と腹は白い。尾羽は黒地に白い横線が 6～8 本入る。雌雄ともに顎線と胸部に黒い斑点を持ち、オスはこの部分に黄褐色または赤褐色を帯びるが、メスは帯びない。また、オスの下雨覆い（翼の内側）は白いが、メスの下雨覆いは黄褐色または赤褐色である。幼鳥は、換羽や嘴がやや短く、首の横や胸、脇腹、尾の下などに淡い赤褐色がみられる。

【生活史】

年間を通してつがいごとになわばりをもって生活し、非繁殖期の雌雄は、なわばりの中で別々に行動しているとされる。なわばりの中には複数のとまり場があり、採食や休息など、行動によって使い分けられている。繁殖期は 3～8 月。繁殖期には、土質の崖に横穴を掘って営巣する。巣穴の大きさは縦 10-22 cm、横 9-21 cm 程度。河川に面した崖だけではなく、河川から 1 km 以上離れた崖も利用し、高さが 2 m もしくは 3 m 以上で、70～80 度傾斜した土崖を好む傾向がある。巣穴の入口から産室までは約 60～180 cm で、産室の大きさは、幅が 30～40 cm、高さ 14～20 cm という記録がある。一腹産卵数は 4-7 卵。卵の大きさは約 4.0×3.2 cm 程度で、色は白く無斑。抱卵期間は約 20～24 日、育雛期間は 32～36 日。抱卵、抱雛ともに雌雄で行う。幼鳥は巣立ち後約 1 か月で親の行動圏から分散する。魚食性で、約 20 cm までの、アユ、ウグイ、オイカワ、イワナ、ヤマメ、カジカ、アカザなど様々な魚類を利用する。

【生息環境】

主に山地の溪流や湖沼に生息するが、河川中流域や海岸部にも生息する。本種の生息には、好適な採食場所となる環境、すなわち河川ではある程度の深さや流れのある、連続した淵や瀬、また採食時に止まり場となる河畔林などが必要であり、営巣可能では露出した広範囲の土崖が重要な条件となる。市街地での繁殖事例もあるが、基本的に警戒心が強く、人の接近を好まない。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】湿地・湿原・細流，河川源流域，河川上流域，河川中流域，ため池・池沼，湖・ダム湖
	【陸域_平地部 海岸部】河川中流域，河川下流域，河口域，ワンド，ため池・池沼，潟・湖・ダム湖，海崖・岩浜・岩礁（磯），汽水域，潟・汽水湖
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(2) 里地里山・田園地域，(4) 河川・湿地地域，(5) 沿岸域

【分布域】

本州から九州まで、留鳥もしくは漂鳥として生息する。北海道に分布するヤマセミは亜種が異なる（亜種エゾヤマセミ）。なお、種ヤマセミは日本のほかにカシミール、ビルマ、インドシナ半島、中国南部、朝鮮半島等にも生息する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

北海道に分布する亜種エゾヤマセミを除けば、ヤマセミは本州から九州まで分布するが、1970年代以降、その減少が著しい。2025年時点で、39都道府県で、準絶滅危惧以上のカテゴリに分類されている。

【生息地の現況】

分布が減少していることから好適な生息地も減少していると考えられる。

【個体数の現況】

全国を対象にした繁殖鳥類分布調査から、1990年代と2010年代でほぼ同じ調査地点を調査した際の出現地点数は北海移動を除いて72地点から39地点に減少したことが明らかとなっている。出現分布域が縮小していることから、個体数も減少している可能性は高い。島根県では、1990年代後半と、2000年代初期に同じ地域で巣穴の個数を比較し、数年の間にも減少したことが報告されている。また、長野県でも2000年代初期と2010年代後半で繁殖数が減少したことが報告されているほか、静岡県、愛知県、福井県、和歌山県など、各都道府県のレッドデータブックで繁殖数の激減が指摘されている。

存続を脅かす要因

河川改修や山間地の崖の崩落防止工事などによる営巣に適した崖の消失や、河畔林等の伐採によるとまり場の減少、釣り人による攪乱、またカワウやサギ類などの大型魚食性鳥類の分布の拡大による食物資源の競争や外来魚による在来魚の捕食等での食物資源の減少が示唆されている。

要因の区分：	（過去）	湖沼開発，河川開発，海岸開発
	（現在）	湖沼開発，河川開発，海岸開発，遷移進行・植生変化/自然遷移，その他（食物の減少（外来魚の増加による適した食物となる魚類の減少））

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第4次 2020： —

第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【青森県】希少野生生物(Cランク), 【岩手県】留意, 【宮城県】準絶滅危惧(NT), 【秋田県】準絶滅危惧(NT), 【山形県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【福島県】準絶滅危惧(NT), 【茨城県】絶滅危惧ⅠB類, 【栃木県】準絶滅危惧(Cランク), 【群馬県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【埼玉県】準絶滅危惧2型(NT2)(繁), 【千葉県】最重要保護生物(A), 【東京都(本土部)】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【東京都(南多摩)】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【東京都(西多摩)】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【神奈川県】希少種(繁殖期), 【新潟県】準絶滅危惧(NT), 【富山県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【福井県】県域絶滅危惧Ⅰ類, 【山梨県】準絶滅危惧(NT), 【長野県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【岐阜県】準絶滅危惧, 【静岡県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【愛知県】絶滅危惧ⅠA類(CR)(繁殖), 絶滅危惧ⅠA類(CR)(越冬), 【三重県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【滋賀県】絶滅危惧種, 【京都府】絶滅危惧種, 【大阪府】準絶滅危惧(NT), 【兵庫県】Aランク, 【奈良県】希少種, 【和歌山県】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【鳥取県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【島根県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【岡山県】絶滅危惧Ⅱ類, 【広島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【山口県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【徳島県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【香川県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【愛媛県】準絶滅危惧(NT), 【高知県】準絶滅危惧(NT), 【福岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【佐賀県】絶滅危惧Ⅰ類種, 【長崎県】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【大分県】準絶滅危惧(NT)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

鳥獣保護管理法, 都道府県条例指定種【滋賀県】

参考文献

- 愛知県, 2020. レッドデータブックあいち 2020 動物編. 愛知県, 810pp.
- 福井県, 2016. 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物. 福井県.
- 石部久, 1997, ヤマセミ. (編) 樋口広芳・森岡弘之・山岸哲, 日本動物大百科〈第4巻〉鳥類 2, pp. 48-50, 56. 平凡社, 東京.
- 神保賢一路, 1997. ヤマセミの暮らし. 文一総合出版, 東京.

- 笠原里恵・加藤和弘, 2007. ヤマセミ *Ceryle lugubris* の育雛に釣り人の存在が与える影響. 日本鳥学会誌, 56: 51-57.
- Kasahara, S. and K. Katoh, 2008. Food-niche differentiation in sympatric species of kingfishers, the Common Kingfisher *Alcedo atthis* and the Greater Pied Kingfisher *Ceryle lugubris*. Ornithological Science, 7 (2): 123-134.
- 笠原里恵, 2023. 知って楽しいカワセミの暮らし. 緑書房, 東京.
- 森茂晃・佐藤仁志, 2003. 斐伊川・神戸川水系におけるヤマセミの営巣状況. ホシザキグリーン財団研究報告, 6: 51-58.
- 森茂晃・佐藤仁志, 2005. ヤマセミの造巣場所選択について. ホシザキグリーン財団研究報告, 8: 247-253.
- 西村昌彦, 1979. カワセミとヤマセミの造巣場所選択について. 山階鳥類所研究報告, 11 (1): 39-48.
- 静岡県, 2020. まもりたい静岡県の野生生物 2019 静岡県レッドデータブック<動物編>. 静岡県. 539pp.
- 植田睦之・植村慎吾, 2021. 全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021 年. 鳥類繁殖分布調査会, 府中. 176pp.
- 和歌山県, 2022. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－. 和歌山県. 783pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Megaceryle lugubris lugubris has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Megaceryle lugubris lugubris* is listed as VU under criteria A2.

A. Reduction in population size based on any of the following:

2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 30\%$ over the last 10 years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】 Wetland/Marsh/Stream, River headwater, Upper river basin, Middle river basin, Reservoir/Pond, Lake/Dam 【Terrestrial/Freshwater area_Plain, Beach】 Middle river basin, Lower river basin, Estuary, Inlet, Reservoir/Pond, Lagoon/Lake/Dam, Sea Cliff/Rocky beach/Reef, Brackish water, Lagoon/Brackish lake
Threat types:	Lake development, River development, Coastal development, Successional progression/Vegetation change/Natural succession, Other
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act. Prefectural Ordinance-Designated Species 【Shiga】 .



執筆者:	笠原里恵（信州大学）
Author:	Satoe Kasahara

公表年月：2026 年 3 月